

授業科目名	【Gカリキュラム】 - 【EFカリキュラム】 特殊講義（スポーツマネジメント論Ⅱ）	選択	開講年次	【G】 - 【EF】 2	単位数	【G】 - 【EF】 2
科目区分	専門科目：【G】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-・-） / 【EF】教科及び教科の指導法に関する科目（-・-・-・-）					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目 【EF】教員の免許状取得のための（-・-・-・-）科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	スポーツマネジメントと多様性			担当者	野呂 一郎	
授業概要	<p>【概要】 現代の経営学のキーワードは「多様性」である。多様性とは、なんでもあり、ということだ。経営学のとらえかた、考え方、その射程が大きく広がっている現象こそが「多様性」である。スポーツマネジメントも例外ではなく、従来なかった視点でスポーツをとらえることがますます重要になってきている。後期はスポーツマネジメントを個性、女性、高校生、アニメ、国際性、生活、生き方、歴史、エンタテインメント、他ジャンルとのコラボ、などの新しい視点から、新しくとらえる試みを行う。</p> <p>【到達目標】 楽しく学びながら、スポーツマネジメントに関する視点や問題解決方法の幅を広げること。</p>					
履修条件	スポーツは興味ないけれど、現代の経営学に欠かせない新しい視点、ブレイクスルー（奇想天外な解決法）を学びたい学生にすすめる。					
教科書・参考書	<p>【教科書】 「産業心理と経営学」北大路書房 野呂ほか著</p> <p>【参考書】 「ナウエコノミー -新・グローバル経済とは何か-」学文社 野呂一郎著</p>					
授業回数	授業内容					
1	ガイダンス—本講義のすすめ方— 予習：教科書まえがき、目次を讀んでくる		復習：現在の企業の在り方と講義の内容を対比する			
2	プロスポーツと魅せ方 米NBAに学ぶ 予習：配布資料を熟読/予告企業事例を考える（計120分程度）		復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
3	現代におけるスポーツと企業の間を調べる 予習：配布資料を熟読/予告企業事例を考える（計120分程度）		復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
4	スポーツとモチベーション 体操・白井選手にみるモチベーション 予習：教科書42～46頁/予告企業事例を精査（計120分程度）		復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
5	オリンピックにみる、商業化するスポーツ 予習：配布資料を熟読/予告企業事例を考える（計120分程度）		復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
6	ラグビーW杯 日本開催の意義 予習：教科書85～95頁/予告企業事例を精査（計120分程度）		復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
7	バスケットボールの地域密着戦略 予習：教科書95～106頁/予告企業事例を精査（計120分程度）		復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
8	メジャーリーガー・イチローにみるセルフマネジメント 予習：教科書27～37頁/予告企業事例を精査（計120分程度）		復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
9	柔道・日大・今野監督にみるリーダーシップ 予習：教科書42～46頁/予告企業事例を精査（計120分程度）		復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
10	箱根駅伝、なぜ青学が強いのか モチベーターとしての監督 予習：教科書41～51頁/予告企業事例を精査（計120分程度）		復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
11	極真カラテはなぜ、全空連と手を結んだのか 戦略的提携とは何か 予習：教科書181～187頁/予告企業事例を精査（計120分程度）		復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
12	ブルース・リー、「燃えよドラゴン」のマーケティング 予習：教科書188～206頁/予告企業事例を精査（計120分程度）		復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
13	メジャーリーグの異文化戦略 予習：教科書203～217頁/予告企業事例を精査（計120分程度）		復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
14	スポーツブランドの研究 予習：配布資料を熟読/予告企業事例を考える（計120分程度）		復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
15	総括と学習到達度の確認テスト 予習：教科書のこれまでの講義に対応するページを讀み直すこと		復習：学説・事例の再理解/提示事例の再検討（計120分程度）			
評価方法	受講態度、確認テスト等の結果を総合考慮して成績を評価する。（受講態度30%・学習到達度の確認テスト70%）確認テストは概念を適切に理解して、自分の言葉で表現しているかを主にチェックする。					
評価基準	上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」を与える。単元の内容についての理解や表現に何らかの不適切な点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とし、単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。なお、確認テスト欠席など、評価不能の場合には「F」とする。					
その他	※G別：法【-】球【-】情【-】 / EF別：法【-】球【-】経【-】					